

# 制服

## 伝統を受け継ぐ、責任ある自由な装い。

### 白線の由来

修道の制服の象徴、袖の白線は、戦時中に避難の際他校の学生と区別するために付けたのが起源です。

**初級【1年 2年】**

初級は指定の制服着用が義務付けられています。

**中級【3年 4年】**

中級は初級と同様、指定の制服着用が義務付けられていますが、ネクタイ・シャツについては選択肢が広がります。

**上級【5年 6年】**

上級は私服着用が認められています。

※中・上級は学校の定める式典には、指定の制服着用が義務付けられています。

## 保護者からのメッセージ

### 一人ひとりの生徒に向き合う先生方の情熱に感謝します。

生徒として通っていたときは、自由な校風の中で個性を伸ばしていただき、さらに節度を教えていただきました。今親の立場で見ると、先生方は一人ひとりの生徒に向き合い、人としての生きる力をつけることに情熱を注いでいただ



和田 章宏さん ■PTA会長・5年生の保護者

います。私たち保護者も学校への意識は非常に高く、教育にも学校行事などにもかかわっています。子どもは、これまでいろいろな壁に跳ね返されてきたようですが、先生や友人のおかげで乗り越えられています。これからは人に支えられていることに感謝し、社会に貢献できる人になって欲しいですね。

### 兄弟で学校の出来事を楽しそうに話しています。

成長期の6年間を一緒に過ごし、一致団結できる仲間をつくることができると思い修道を勧めました。上の子どもは野球班に入り、熱心な指導者という仲間に出会い毎日充実した日々を送っています。下の子どもは授業のことや先生のことなどその日あったことを帰宅してすぐに話してくれます。まだ入学したばかりで新鮮な毎日を楽しんでいるようで、兄弟で学校の出来事をよく話しています。自主性を尊重し、自由な校風が合っているのだと思います。子どもたちには良き友人をいっぱい作り、夢に向かって努力し続ける人になって欲しいです。



磯野 佐知子さん ■1・4年生の2人の保護者

## 校長あいさつ

修道に期待を持って入った生徒を、修道を愛する先生が育てる。

近年、修道へ入学した生徒のほとんどが「自分で修道に決めた」と答えます。これは修道に対して大きな期待を持っていることの証で、私ども教職員にとって嬉しいことでもあり、身が引き締まる思いでもあります。しかし私は期待に応えられないとは全く思っていない。それは修道の教職員も「修道の先生になりたい、修道で教えたい」と高いモチベーションを持って入ってきているからです。これは私学ならではの、特に修道の教職員の愛校精神は高いと自負しています。

よく「修道は自由な校風だ」と耳にします。確かに“責任ある自由”として生徒のさまざまな意見を取り入れ、また先生に対しても信頼して多くの部分を任せています。今年で創立288年を迎える歴史ある学校の校風が、ここ数年で作られたわけではありません。これまでの先輩たちが培ってきた伝統を受け継ぎながら、新しい創造を続けていかなければならないと考えています。

保護者のみなさまには「待つ(見守る)」気持ちで生徒を見ていただきたいと思っています。自主性は育てていくものです。そのためには大人が「待つ」姿勢でなければ自主性は育たないでしょう。リスクをすぐに摘み取るのではなく、壁を乗り越える経験をさせてあげるのも大切な教育の一つです。

建学の精神「有為な人材の育成」を果たすためにも、教職員、生徒、保護者が一体となって取り組むことが大切だと考えています。



修道中学校・修道高等学校 校長  
田原 俊典

## 沿革

- 1725年(享保10年)11月10日 広島藩主浅野吉長は広島白崎古居敷の一部に「講学所」を創始し、寺田臨川に学政を総督させる。(広島藩藩校の創始・創立記念日の由来)
- 1734年(享保19年)12月 「講学所」を「講学館」と改称する。寺田臨川「学規三箇」を示す。
- 1743年(寛保3年)10月 経費削減令によって「講学館」が休学となる。
- 1782年(天明2年)2月 「学問所」が広島城内三の丸に興される。
- 1863年(文久3年) 山田養吉(十竹)を登用する。(塾頭に任じられる。)
- 1870年(明治3年)8月 学制を改革し、学問所を城内八丁馬場に移し、新たに「修道館」(修道学園の名前の起源)と格する。
- 1871年(明治4年)10月 徳薩藩恩恵により修道館が休業となる。
- 1878年(明治11年)6月 浅野長勲が呉郷内に「私立浅野学校」を設立。(「修道館」の継承)
- 1881年(明治14年)11月 学制を改革し、山田十竹を校長とし、「修道学校」と改称する。
- 1886年(明治19年)4月 山田十竹は「修道学校」の経営を浅野家より引き継ぎ、自宅で教授する。
- 1905年(明治38年)4月 水山烈を設立者とし、「私立修道中学校」を発足。水山烈、初代校長となる。
- 1907年(明治40年)1月 唐竹屋町へ移転。
- 1926年(大正15年)3月 南千田町に移転し、現在に至る。
- 1938年(昭和13年)11月 初代「修道館」の建設。山田十竹の銅像を建立。学園創立200年記念式典。
- 1945年(昭和20年)8月 原爆により校舎の大部分が壊滅する。
- 1947年(昭和22年)4月 学制改革により新制中学校を設置。(現修道中学校)
- 1948年(昭和23年)5月 新制度による修道高等学校を設置。
- 1957年(昭和32年)11月 学園開始23年、私学80年式典。「修道学園史」刊行。
- 1978年(昭和53年)10月 学園開始253年、私学100年式典。「修道学園史」刊行。本館・体育館等の新築、既設校舎・プール等の大改装。
- 1995年(平成7年)4月 学校週5日制(2回土休)を実施。
- 8月 被爆50周年慰霊式典実施。記念誌「流光」刊行。第二次世界大戦後50年に当たり、平山郁夫画伯より「原爆ドーム」の絵画の寄贈を受ける。
- 1999年(平成11年)11月 校舎建て替え工事着工。
- 2000年(平成12年)7月 北館完成(第1期工事)。
- 2001年(平成13年)7月 南館(西)完成(第2期工事)。
- 2002年(平成14年)7月 南館(東)完成(第3期工事)。
- 2003年(平成15年)3月 新修道館完成(第4期工事)。
- 4月 制服の改定。学校週5日制を実施。
- 5月 テニスコート・球技コート・弓道場完成。(第4期工事)。
- 8月 メイングラウンド改修工事完了(第4期工事)。
- 9月 平山郁夫画伯制作の原画「希望の光 安芸の小富士」の陶板画を同窓会より寄贈を受ける。本館ロビーに設置。
- 2008年(平成20年)8月 本館耐震化及び改修工事実施。
- 2010年(平成22年)3月 総合体育館完成。
- 2013年(平成25年)9月 クラウド改修完成予定。

